

学 校 名	山形市立第四中学校 山形市花楸二丁目 8 番 4 8 号 TEL 622-3904 FAX 633-9801	校 長	川 部 昌 平
		研究主任	佐 藤 俊 朗
研 究 主 題	思いやりの心を持ち、たくましく生きる生徒の育成（１年次） ～自分らしさを素直に出せる学習集団の育成を目指して～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	感性の時代といわれる現代、子ども達は素直な心で感動し、多様な感性の広がりを見せている。子ども達の新しい感覚や発想の豊かさには、時代を拓く可能性が感じられる。 一方、きちんとした形でコミュニケーションを取れず、他からのメッセージをしっかり受けとめることができないために、ＴＰＯに欠ける言動も見うけられる。 特に感じられるのは、自分を出さなければならない場面で、なかなか本気の自分を出せないという点である。この点が、潜在的な能力は秘めているにもかかわらず、なかなか自分の力を出し切れない受け身の姿勢が目立つ四中生という印象を与えているように思う。 そこには表面的な落着きの下に見え隠れする、お互いがお互いに遠慮している、どこかよそよそしい人間関係があるように思える。 激しく変化する社会を生き抜くたくましさは「生きる力」の重要な要素になっている。 そのたくましさは自信をもって自分らしさを発揮できて初めて個に根づくものと考え、また、自分らしさは個々の生徒が集団の中で認知されていて初めて発揮しうらようになると思う。 一人一人の生徒が自分らしさを発揮できる学びの場を創造することが、本校の学校教育目標「心豊かでたくましい生徒の育成」の実現に結びつくと考え、本研究主題を設定した。		
研 究 の 目 標	生徒が生き生きと生活する学校作りの核となる「心の教育」のあり方を探る。 生徒に学び、生徒と共に育とうとする教師集団の育成。 指導と研修の一体化を図り、個々の教育的実践力を高める。		
研 究 の 仮 説	他と関わる体験を行う活動の場を計画的に設定する。 において個々の生徒が自己決定を行うプロセスを設ける。 個性としての「自分らしさ」を引き出す工夫を行う。 多様な個性が練り合いの中で収束していく過程において、他の良さに気付かせる。 他者の視点で自己を見つめさせ、自己に対する認識を深めさせる。 ～ のサイクルで、適時かつ的確に自己決定から結果までのプロセスを評価していけば、自他への認識が深まり、より広くより深くものごとを見つめる生徒が育つであろう。		

研究内容の方 法	はじめに 「心の教育」としての道德教育は、学校における全教育活動を通して行われるものであるが、今年度は特に、道德教育の要の時間としての道德の授業、必修教科の教科指導に領域を限定し、「生徒が自分らしさを発揮できる学習集団作り」を目指して研究を進めていきたい。 研究の内容 道德教育について ・体験・経験の中に主題を発見すること、及び生徒が自分のこととして考えられる題材の工夫。 ・個々の生徒の多様な考え・思いを引き出せる展開のあり方。 ・「心の教育」を通じた地域との連携交流のあり方。 教科指導について ・生徒同士が主体的に関わる活動の工夫。 ・個々の生徒が参加意識を持てる活動の工夫。 ・自己決定の場の設定と自己決定に基づく主体的な活動の評価。 研究の方法 ・「四中生の姿」について全職員が自由に意見を出し合い、生徒の実態の把握について共通理解を図る。 ・道德性についてのアンケートを定期的実施し、生徒の意識の変容を把握する。 ・道德の授業研究会を定期的に行い、生徒の多様な考えを引き出すと共に道德的価値の気付きに収束させていく授業の展開について考察を深める。 ・「心のノート」を計画的に活用し、個が自分を見つめる機会を与え、心の成長を促す。 ・教科の授業研究会・実践発表等を通し、一人一人の生徒が自分なりのやり方で主体的に学習に取り組める方法、生徒の主体的な学習能力を高める評価のあり方、個が活躍できる学習集団作りについて考察を行っていく。
研究計 画	【1学期】 5月26日（月） 第1回校内研修会：四中生の実態及び研究の方向性について 6月 第2回校内研修会：研究推進計画検討 7月16日（水） 第1回道徳授業研究会（第3学年中心） 7月 道德性についてのアンケート調査とまとめ 【2学期】 10月 第3回校内研修会：実践発表、研究先進校視察報告 11月21日（金） 教科授業研究会：美術、保健体育、技術・家庭 11月 第2回道徳授業研究会（全員参加） 【3学期】 1月 第3回道徳授業研究会（第1学年中心） 2月 第4回校内研修会：今年度の実践についての検討、課題の絞り込み 3月 第5回校内研修会：来年度研究の基本構想についての検討